

デジタルアーカイブ実習 (春学期、秋学期 1単位)

研谷 紀夫

Digital Archiving (Lab.)

■授業概要

本講義では、文化資源をデジタル化したコンテンツ、Digital Cultural Heritage (DCH) を自ら構築していく実習を行います。実習では、(1) 資料の選定、(2) コンテンツの編集・制作、(3) 評価・プレゼンテーション、の過程を学びます。

最初の、「(1) の資料の選定」において、権利上問題がなく、且つ自分が興味を持つ、美術、写真、遺跡、建物、街のスポット、各種の作品などの題材を選定し、DCH の構築を行います。

次の「(2) コンテンツの編集・制作」においては、コンテンツに適応した文化資源の情報編集を実践的に学びます。具体的には Adobe のイラストレータやフォトショップを用いて、地図や様々なインターフェイスを作成し、さらに Microsoft の PowerPoint などを用いて、テキストや画像のレイアウトデザインを学びます。そして、プログラミングなどを特に必要としない方法で、タッチディスプレイなどで閲覧できるコンテンツを完成させます。

そして、最後の「(3) 評価・プレゼンテーション」は、画像が正しく表示されているか、情報が正しく入力されているかについて、評価・検証します。特に、「プレゼンテーション」の場では、自ら制作したデジタルコンテンツの目的や資料の内容、情報化における工夫などについて、発表を行い、受講者からの評価をうけます。以上のような過程を通して、文化資源を情報化して公開する方法論とその意義や課題を学びます。

■到達目標

講義を通して以下の点を学ぶことを目標とします。

- (1) Digital Cultural Heritage の構造を学ぶ。
- (2) Digital Cultural Heritage の構築方法を学ぶ。
- (3) 文化資源のデジタル化手法を学ぶ。
- (4) Digital Cultural Heritage を評価する手法を学ぶ。

■授業計画

- 第01講：Digital Cultural Heritage の構築 I
(課題資料)：全体解説と課題資料
- 第02講：Digital Cultural Heritage の構築 I
(課題資料)：資料のデジタル化
- 第03講：Digital Cultural Heritage の構築 I
(課題資料)：制作
- 第04講：Digital Cultural Heritage の構築 I
(課題資料)：制作
- 第05講：Digital Cultural Heritage の構築 I
(課題資料)：制作
- 第06講：Digital Cultural Heritage の構築 I

(課題資料)：完成と評価

- 第07講：Digital Cultural Heritage の構築 II
(自由資料)：プレゼンテーション
- 第08講：Digital Cultural Heritage の構築 II
(自由資料)：計画立案
- 第09講：Digital Cultural Heritage の構築 II
(自由資料)：資料のデジタル化と制作
- 第10講：Digital Cultural Heritage の構築 II
(自由資料)：制作
- 第11講：Digital Cultural Heritage の構築 II
(自由資料)：制作
- 第12講：Digital Cultural Heritage の構築 II
(自由資料)：完成と評価
- 第13講：プレゼンテーション
- 第14講：応用コンテンツの解説
- 第15講：全体のまとめ

■授業時間外学習

素材の選定や、撮影、制作、取材

■成績評価の方法

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

複数の平常試験(課題)が100%

■成績評価の基準

- (1) Digital Cultural Heritage の構築方法を習得したか。
- (2) 文化資源のデジタル化手法を習得したか。
- (3) Digital Cultural Heritage の評価手法を習得したか。

目安となる総合点 秀：100-90点 優：89-80点、
良：79-70点、可：69-60点、不合格：59点以下

■教科書

『文化資源デジタル化のためのハンドブック』(東京大学大学院情報学環+凸版印刷株式会社 研谷紀夫、北岡タマ子、高橋英一 共同研究プロジェクト)
<http://www.center.iii.u-tokyo.ac.jp/handbook> よりダウンロードできます。

■参考書

■備考

連絡方法は教員紹介に掲載されているメールアドレスなどを参照してください。

講義の内容は、受講者の関心や理解度にあわせて変更することがあります。